

2021年3月期第2四半期決算説明資料

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）

2020年11月13日

I 決算の概要

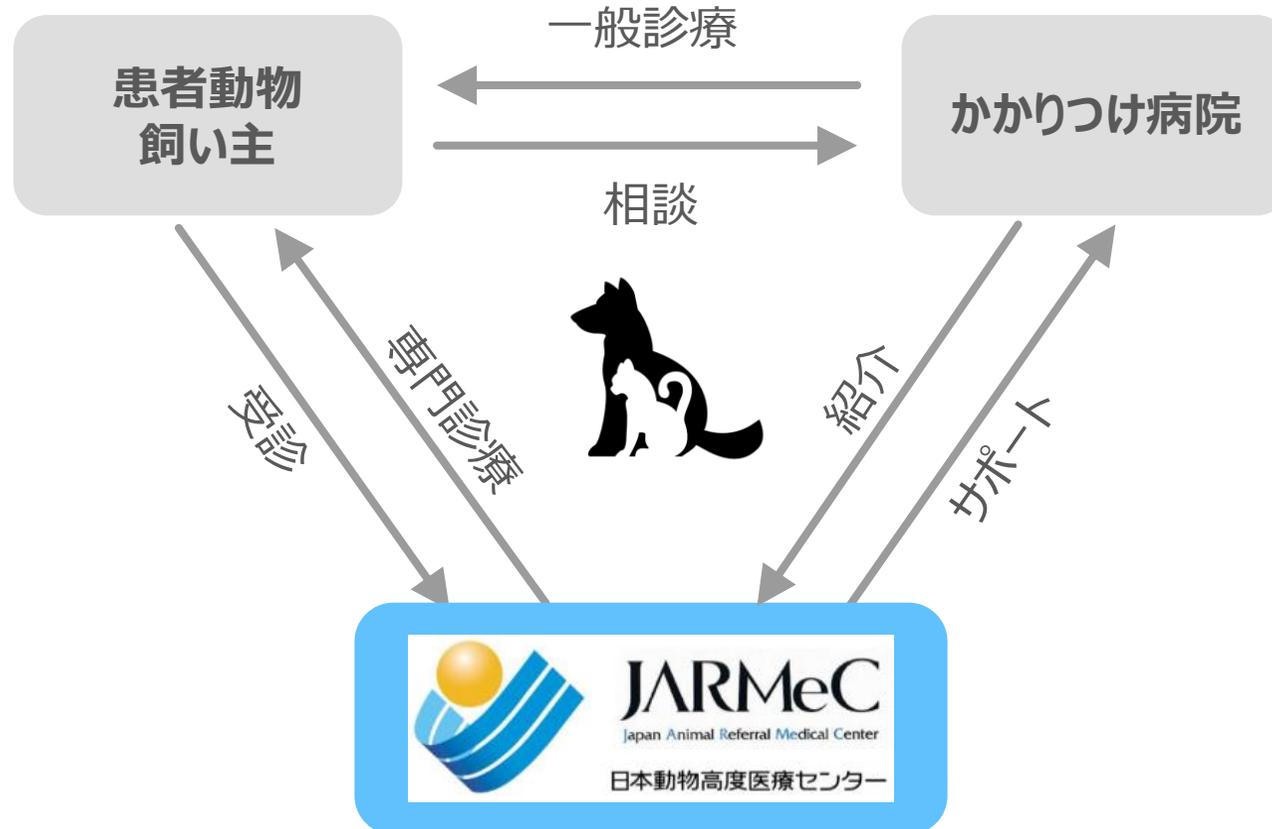
II 市場動向および中期展望



I 決算の概要



当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ コロナ禍において動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類

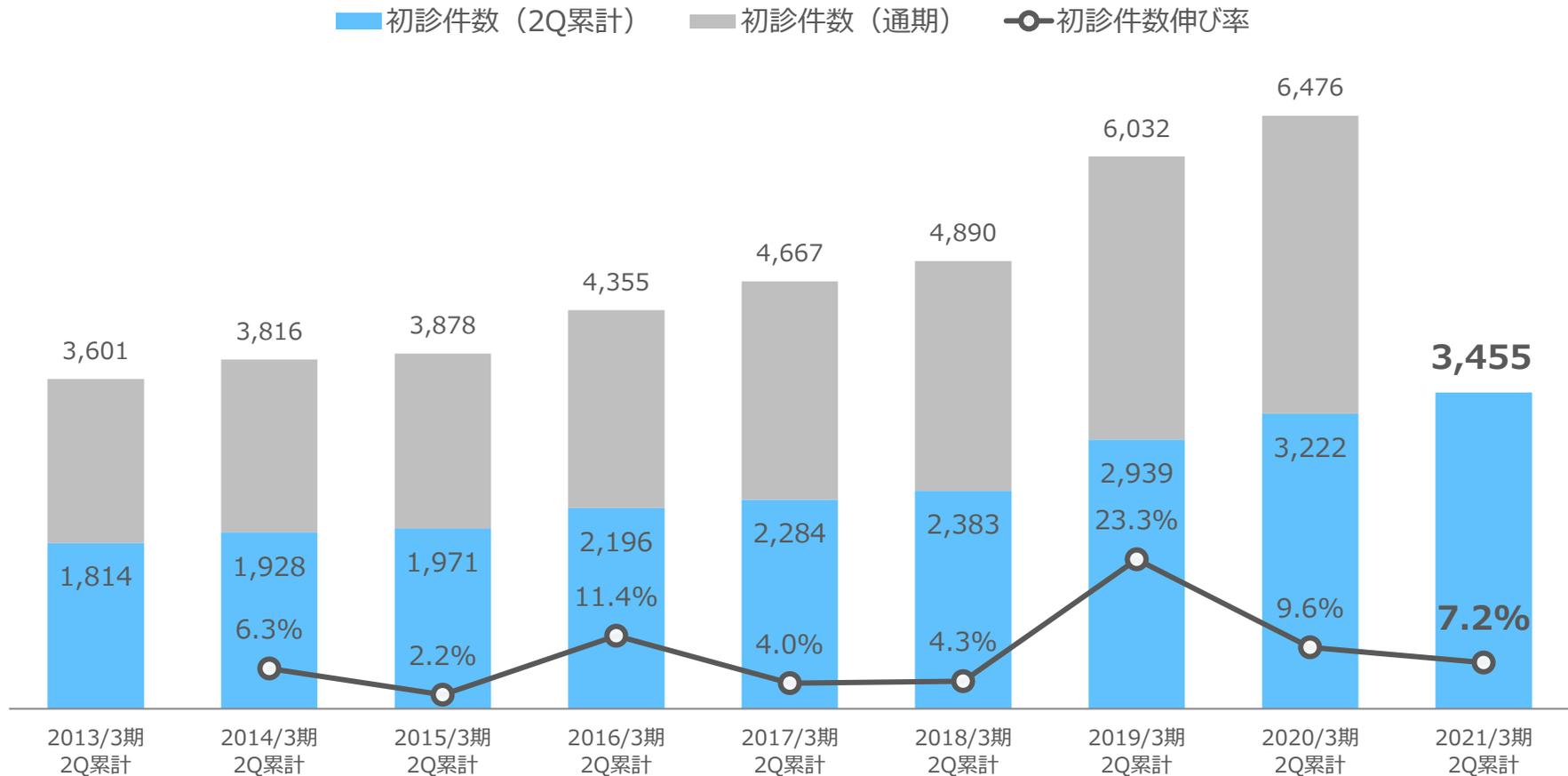
2021年3月期第2四半期累計期間 決算概要

- 初診件数、手術件数の成長が続き、第2四半期累計期間における過去最高売上を更新。
- 一方で、事業拡大に伴う人件費の増加等が重石となり、営業利益以下は減益。
- 通期計画に対しては、売上高、各利益、初診件数いずれも想定通りに進捗。

(百万円)	2020/3期			2021/3期				
	2Q累計実績	進捗率	通期実績	2Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	1,358	49.7%	2,734	1,410	+51	+3.8%	50.4%	2,800
営業利益	218	50.7%	430	196	▲21	▲10.0%	45.2%	435
経常利益	222	49.4%	450	196	▲26	▲11.8%	44.1%	445
親会社株式に帰属する 四半期純利益	158	50.7%	312	134	▲23	▲14.9%	42.8%	315
1株当たり 四半期純利益	65.3円	-	128.7円	57.3円	▲7.9円	▲12.2%	-	132.3円
初診件数	3,222件	49.8%	6,476件	3,455件	+233件	+7.2%	51.7%	6,680件

初診件数（紹介数）の推移

- 初診件数は前年同期比7.2%増の3,455件。第2四半期累計期間では過去最多件数を更新。

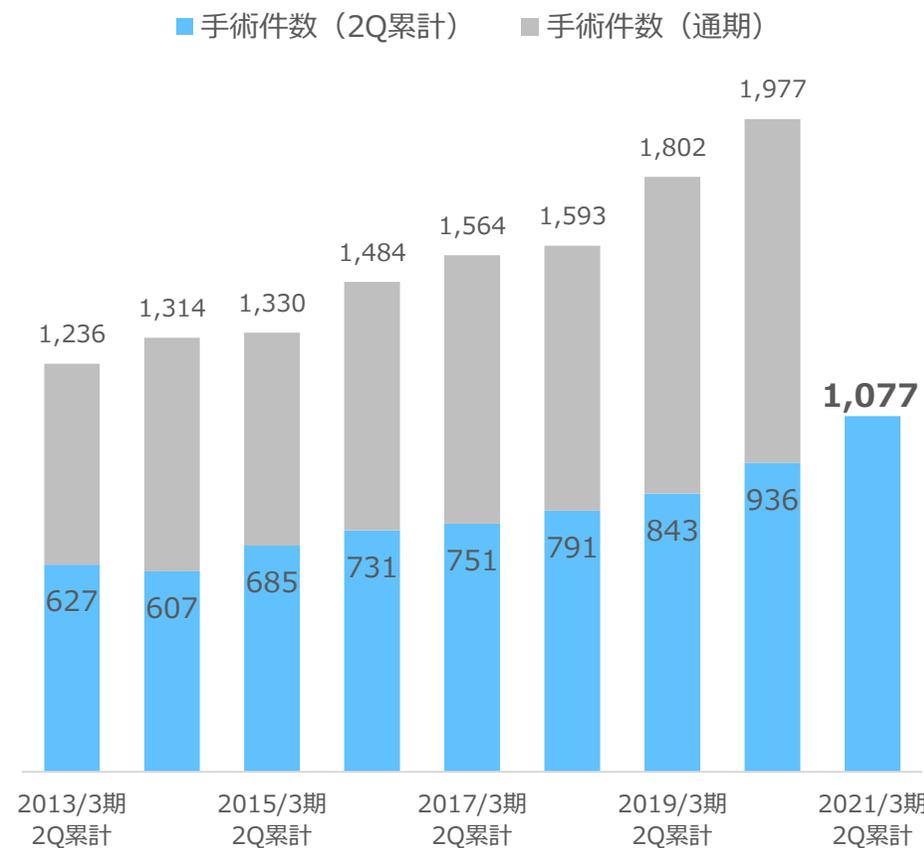
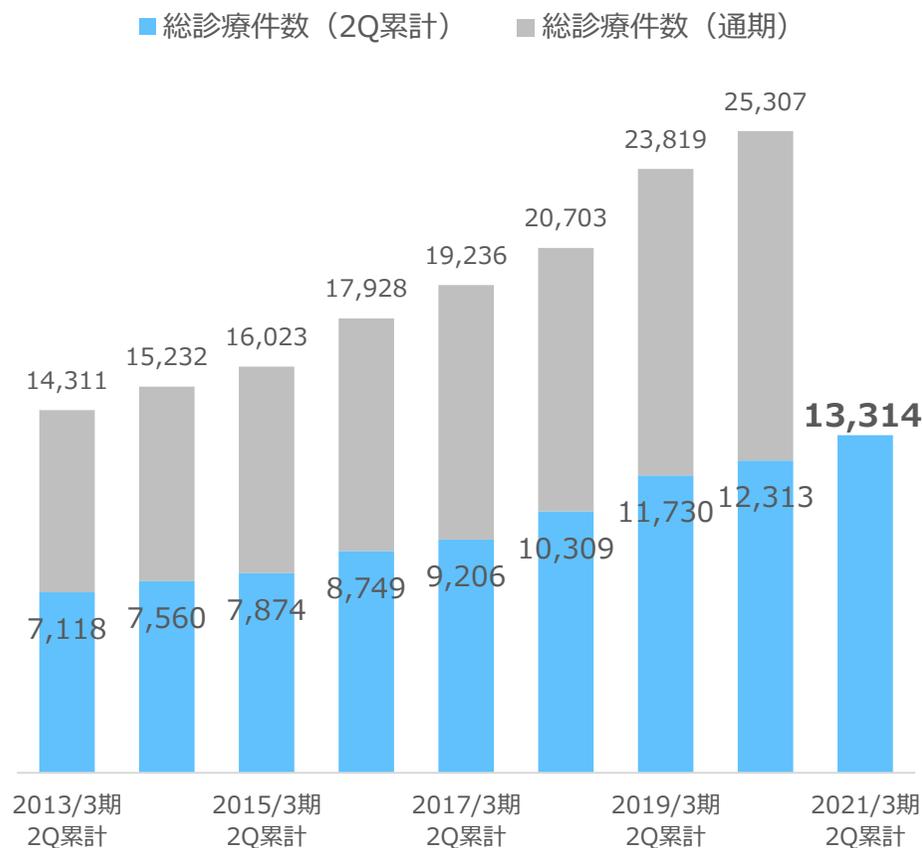


総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数、手術件数においても前年同期比プラス成長を維持。
- 総診療件数は13,314件、手術件数は1,077件となり、いずれも過去最多件数を更新。

総診療件数の推移

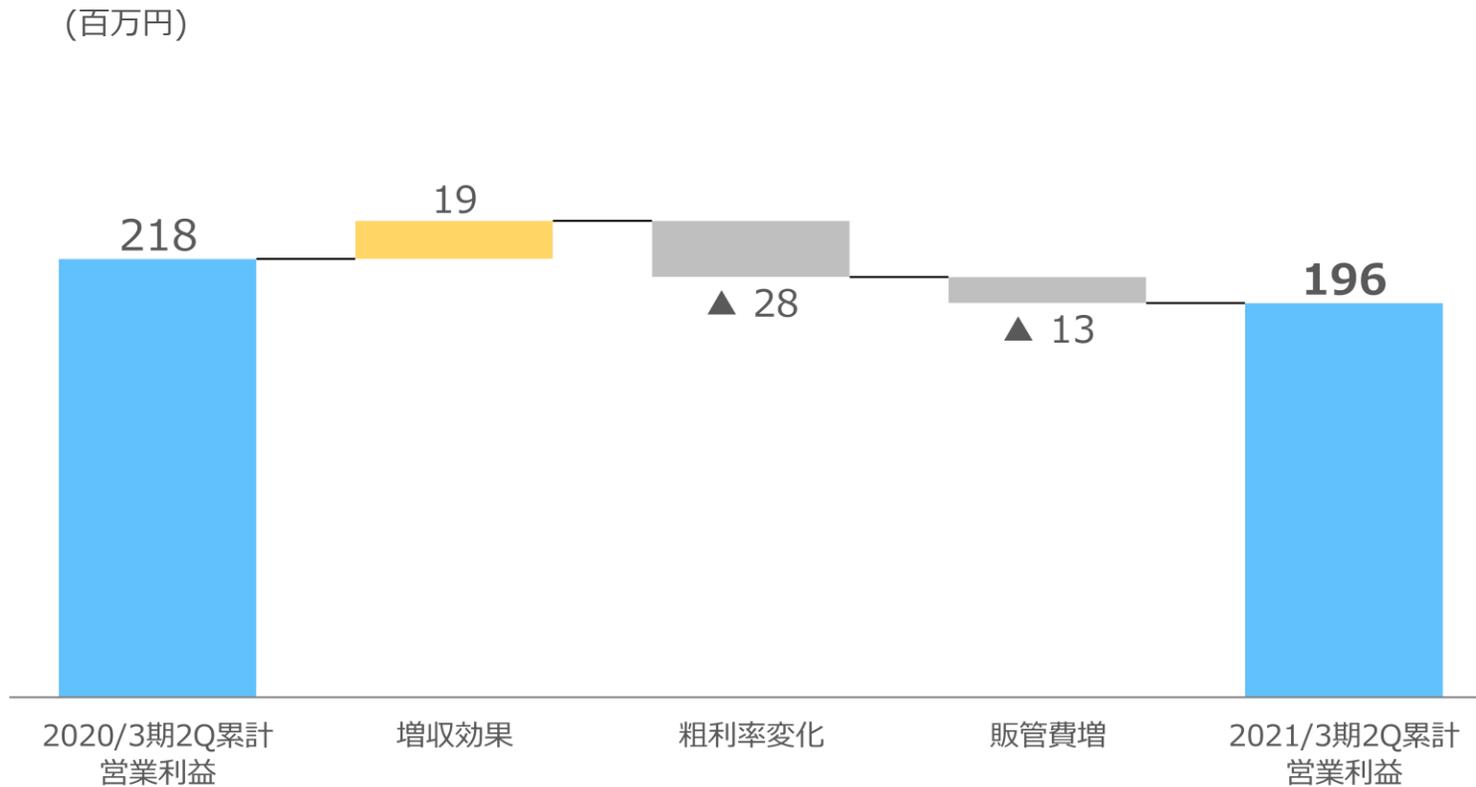
手術件数の推移



※総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

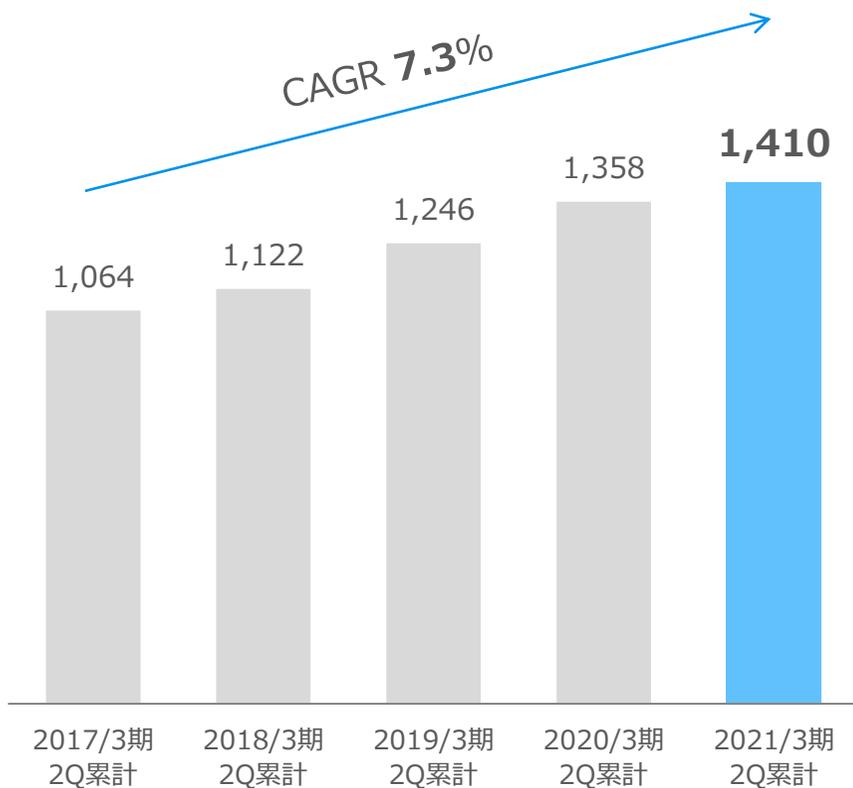
- 事業拡大を見据えた従業員の増加および待遇改善に伴う人件費が総じて増加したこと等により、前年同期比増収も、粗利率は低下、販管費は増加。



- 売上高は前年同期比3.8%増の14億10百万円となり、第2四半期累計期間では過去最高売上を更新。
- 営業利益は前年同期比10.0%減の1億96百万円で着地。

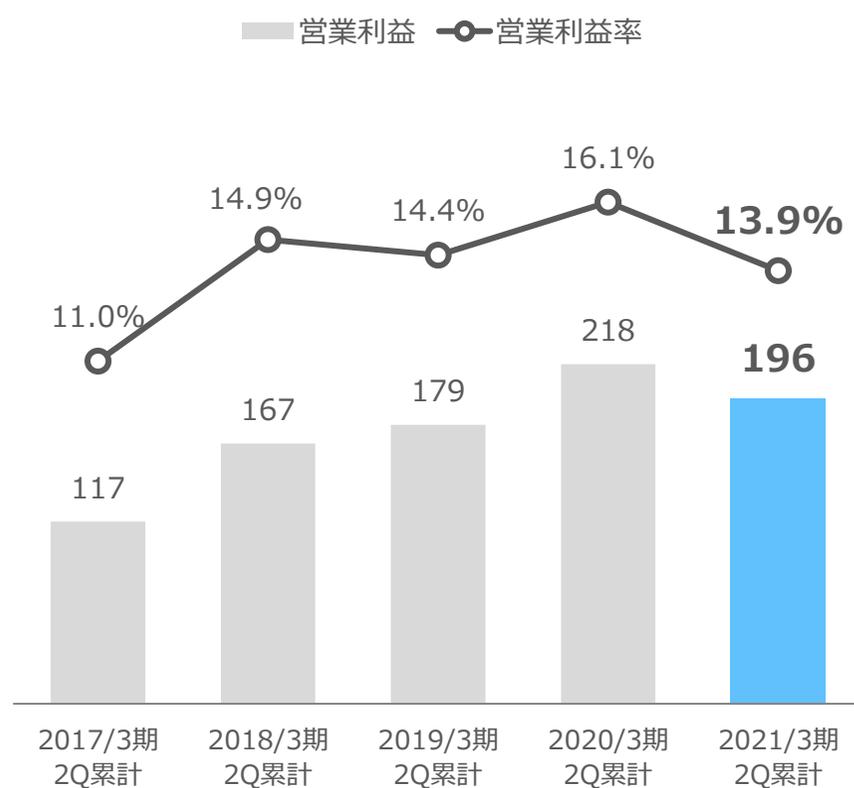
売上高の状況

(百万円)



営業利益・営業利益率の状況

(百万円)



バランスシート状況

- 有利子負債が1億62百万円減少したこと等により、有利子負債依存度は56.0%に低下。
- 株主資本は、自己株式取得はあったものの46百万円の増加し、自己資本比率は37.6%へ上昇。

(百万円)	2020/3期	2021/3期2Q	3月末比
流動資産	1,464	1,361	▲102
現預金	1,249	1,131	▲117
売掛金	144	138	▲5
固定資産	4,464	4,429	▲34
有形固定資産	4,282	4,217	▲65
総資産	5,928	5,791	▲137
負債	3,794	3,611	▲183
有利子負債	3,404	3,241	▲162
純資産（株主資本）	2,133	2,180	+46
自己株式	▲13	▲108	▲94
負債純資産合計	5,928	5,791	▲137

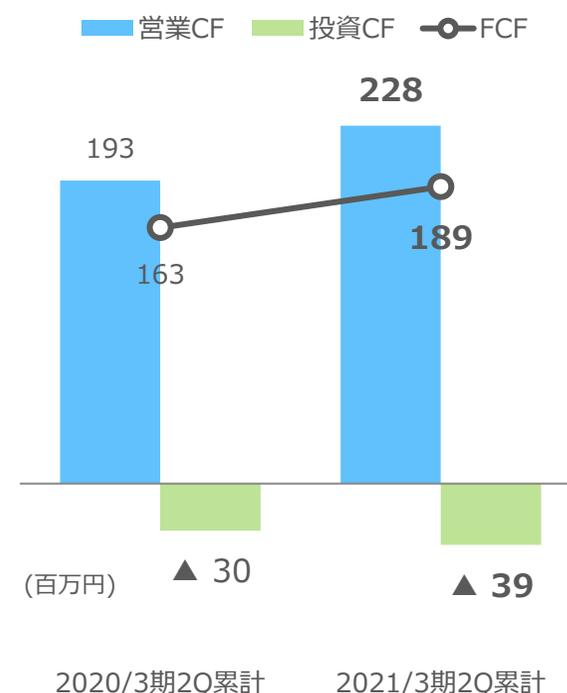
有利子負債依存度は
57.4%から56.0%に低下

自己資本比率は
36.0%から37.6%へ上昇

キャッシュフローの状況

- 未払消費税等の減少などにより、営業CFは35百万円増の2億28百万円。設備投資の増加により投資CFは▲39百万円となり、FCFは26百万円増の1億89百万円となりプラスを維持。

(百万円)	2020/3期 2Q累計	2021/3期 2Q累計	前年同期比
営業CF	193	228	+35
税金等調整前 四半期純利益	223	196	▲26
減価償却費	108	118	+10
賞与引当金の増減	▲3	11	+14
未払消費税等の増減	▲77	▲ 12	+64
投資CF	▲30	▲ 39	▲9
有形固定資産取得	▲12	▲ 35	▲23
FCF*	163	189	+26
財務CF	▲261	▲ 306	▲45
有利子負債の増減	▲264	▲ 162	+101
自己株式の取得	—	▲ 147	—



*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

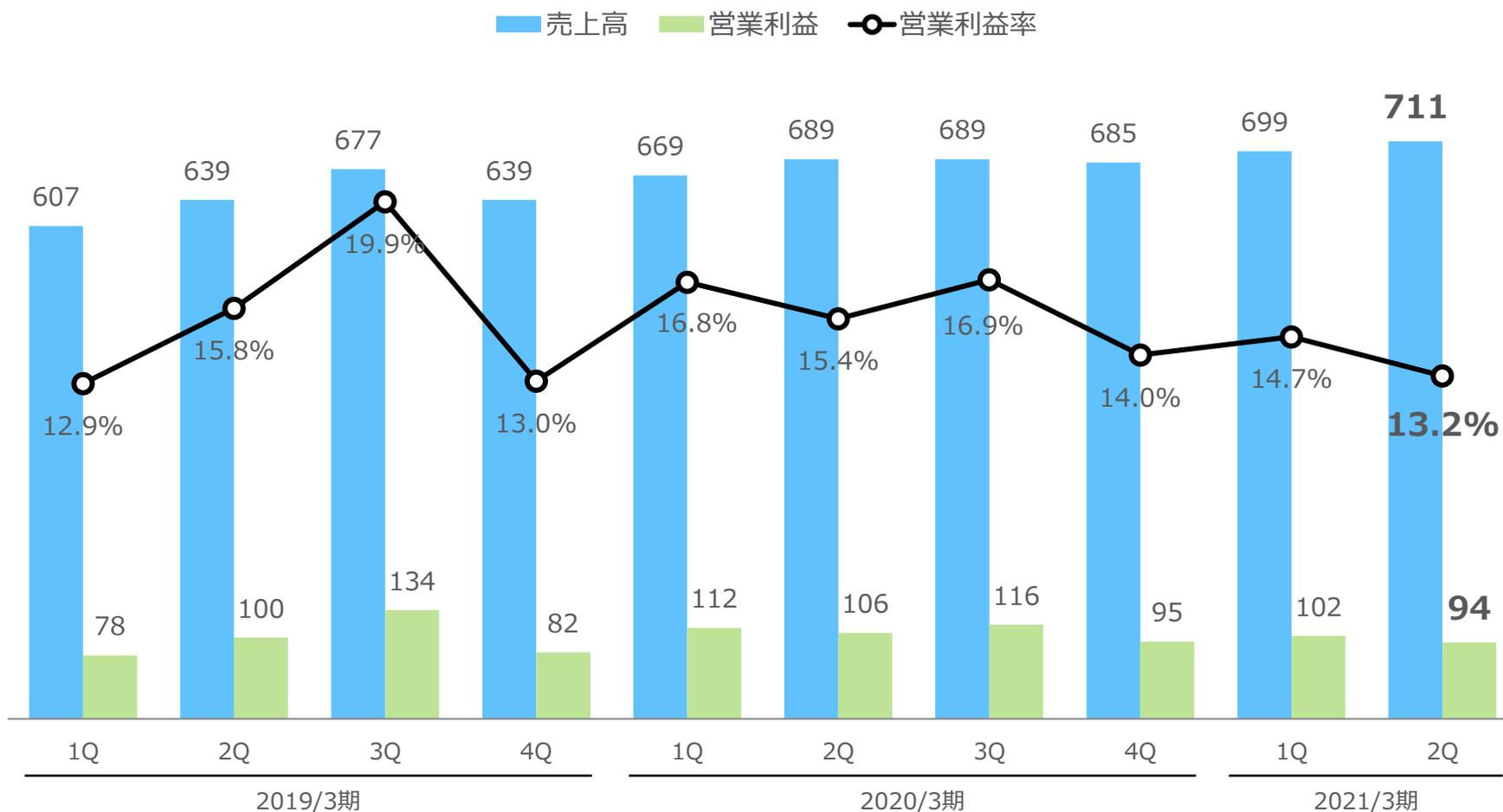
2021年3月期の見通し

- 通期計画については、当初の業績予想からの変更はなし。
- 新型コロナウイルスによる業績への影響は比較的軽微とみているが、引き続き感染拡大防止に最優先に取り組み、慎重な業務の遂行を継続。

(百万円)	2020/3期	2021/3期			
		上期実績	通期計画	前期比	
売上高	2,734	1,410	2,800	+65	+2.4%
営業利益	430	196	435	+4	+1.0%
経常利益	450	196	445	▲5	▲1.3%
親会社株主帰属 当期純利益	312	134	315	+2	+0.7%
初診件数	6,476件	3,455件	6,680件	+204	+3.2%

(ご参考) 四半期決算 業績推移

- 2021/3期第2四半期は、前年同期比3.2%増の7億11百万円となり、四半期ベースでも増収を確保。
- 一方で、事業拡大を見据えた従業員の増加や、待遇改善に伴う人件費の増加により営業減益。



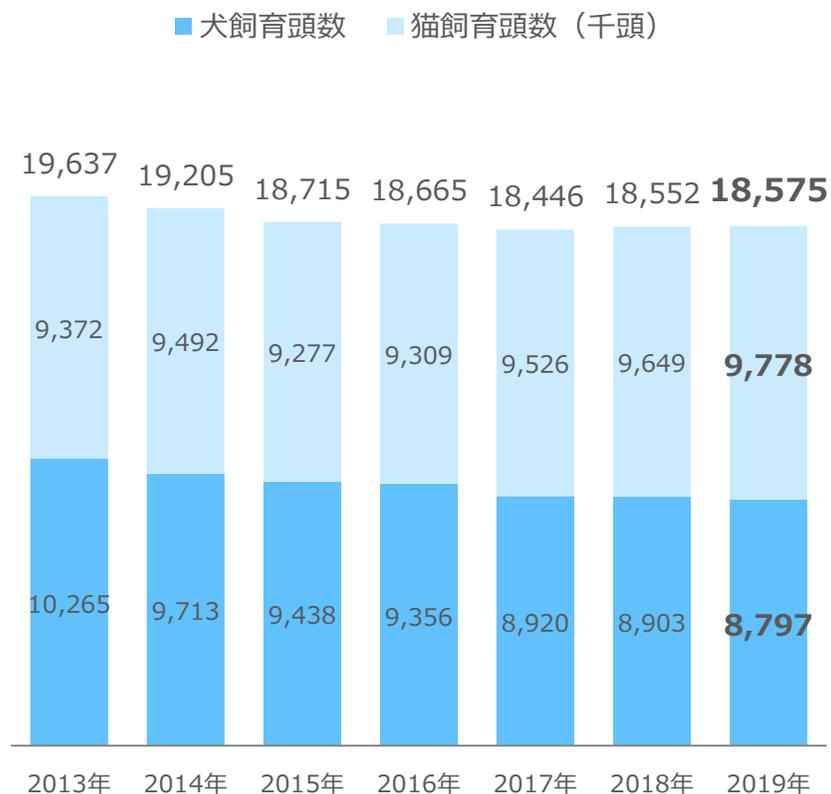
Ⅱ 市場動向および中期展望



動物医療業界を取り巻く環境

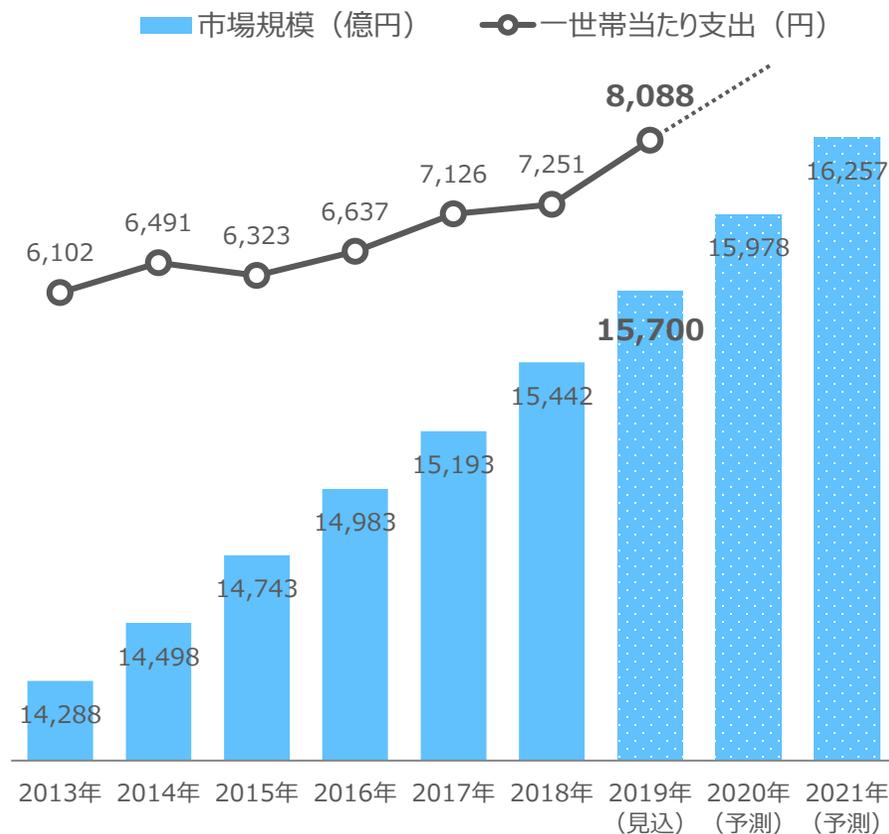
- 犬猫飼育頭数は減少傾向にあったが、昨今の猫人気により、ここ2年では微増。
- ペットの家族化により、世帯当たりの動物病院支出額は増加。市場規模は年々拡大。

犬猫飼育頭数



出所：ペットフード協会「令和元年 全国犬猫飼育実態調査」

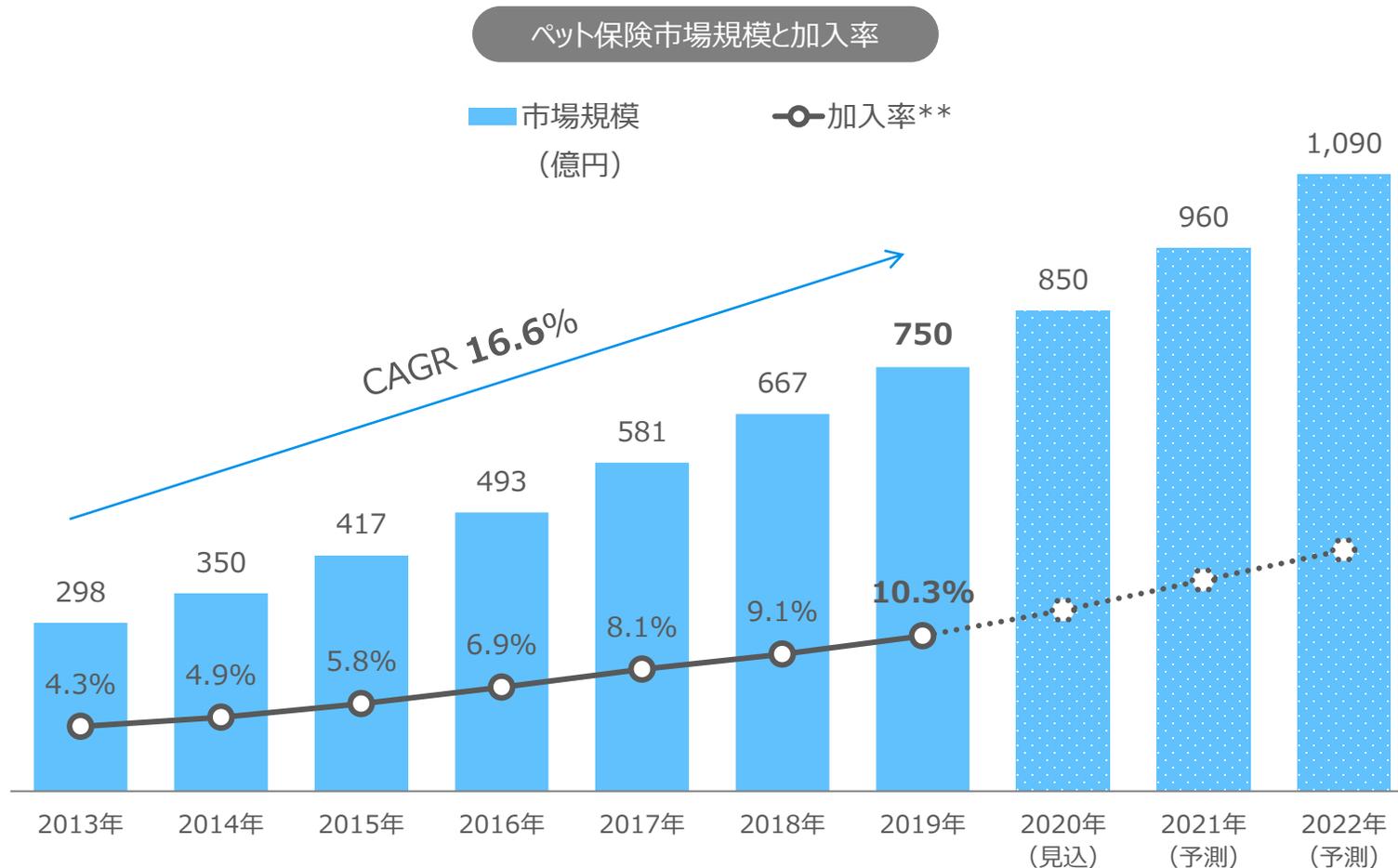
市場規模と一世帯当たり動物病院支出額



出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2020年版」、総務省「家計調査」

ペット保険の成長性

- ペット保険の市場規模は年平均約16.6%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し。
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい。



*欧米諸国の加入率は30~40%と高く、特にスウェーデンでは50%を超える高い加入率を有している
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済 2020ペット関連市場マーケティング総覧

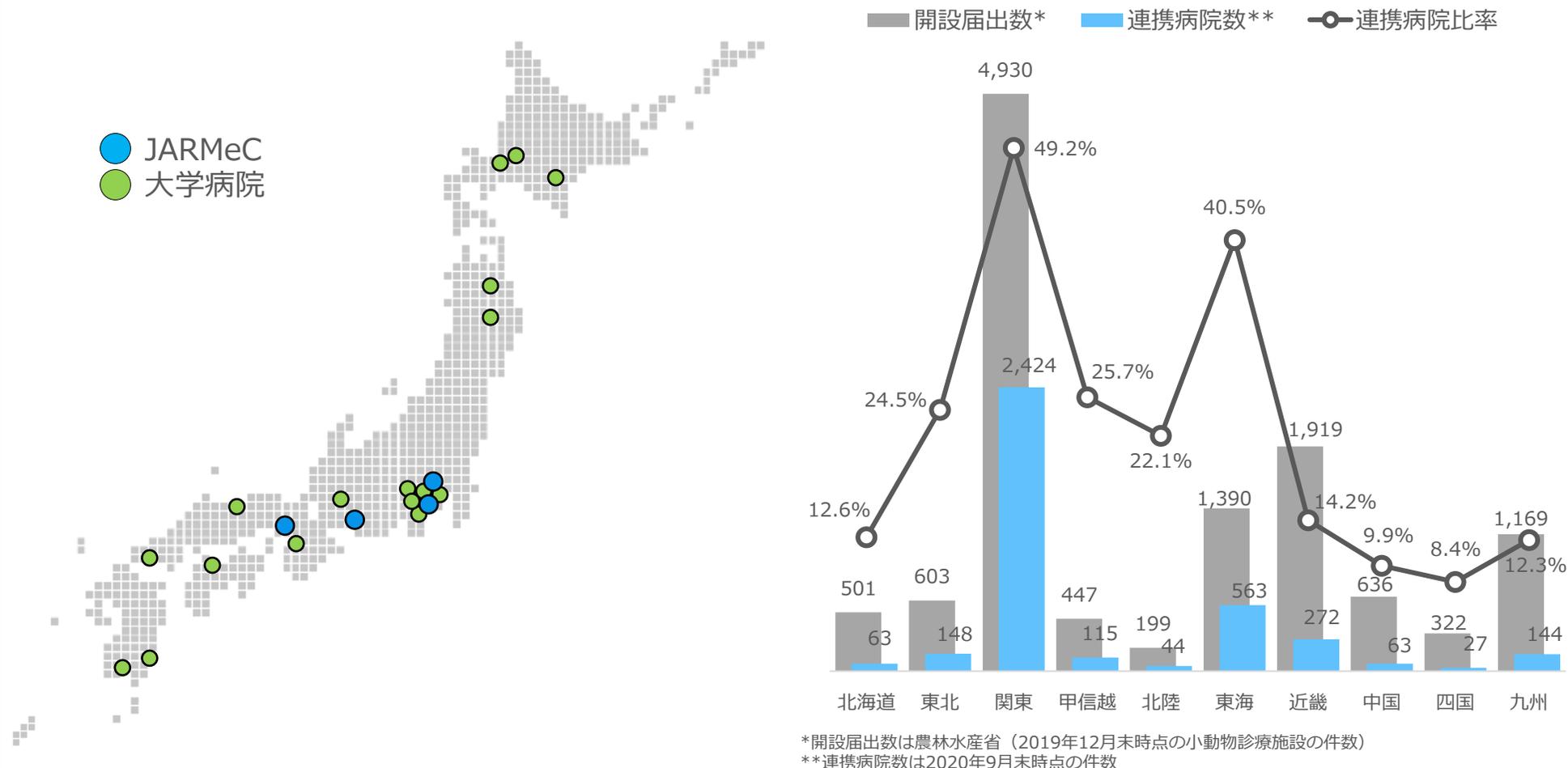
- 動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類され、事業の継続を要請されている。
 - ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大防止の取り組み
 - 従業員全員に手洗い・手指消毒・マスク着用を義務付け
 - 病院施設内のドアノブ、ボタン類の定期的な消毒
 - 室内の換気、空気清浄機の運転等による環境除菌
 - ご来院の方への立入り制限の実施、手洗い・手指消毒・マスク着用の奨励

当社グループは、従業員とその家族、来院する飼い主の安全確保、感染拡大防止に最優先に取り組んでいく所存

- ◆ 新型コロナウイルスによる将来的な影響
 - 経済的理由から動物医療に対する支出減少への懸念
 - 自粛ムードの高まりによる、遠方からの来院自粛への懸念

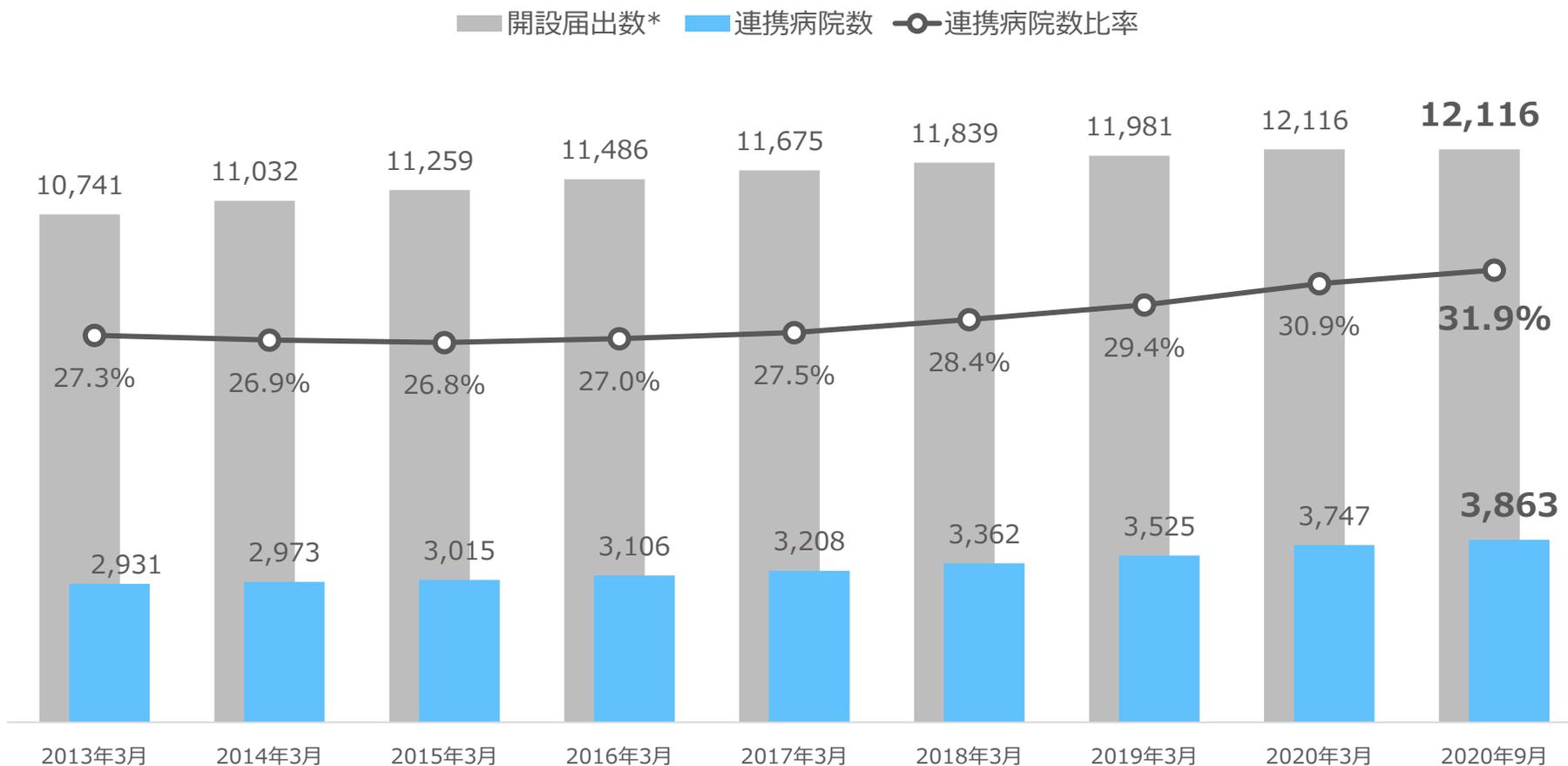
拠点の拡大

- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進。
- 大阪病院（仮称）は、2021年秋頃の開院に向けて準備中。
- 関西圏の連携病院拡大に注力。



連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加。
- 2020年9月時点で全国3,863施設と連携し、連携病院数比率は31.9%を達成。



*開設届出数は農林水産省（2019年12月末時点の小動物診療施設の軒数）

プラスサイクルを使用した他社との連携

- 活動量計「プラスサイクル」とPanasonic「おうちクラウドディーガ」のサービス連携開始。
- ディーガでプラスサイクルのデータを自動取得し、ディーガに保存したペットの映像とその撮影時間帯の活動量データを一緒に確認することが可能。



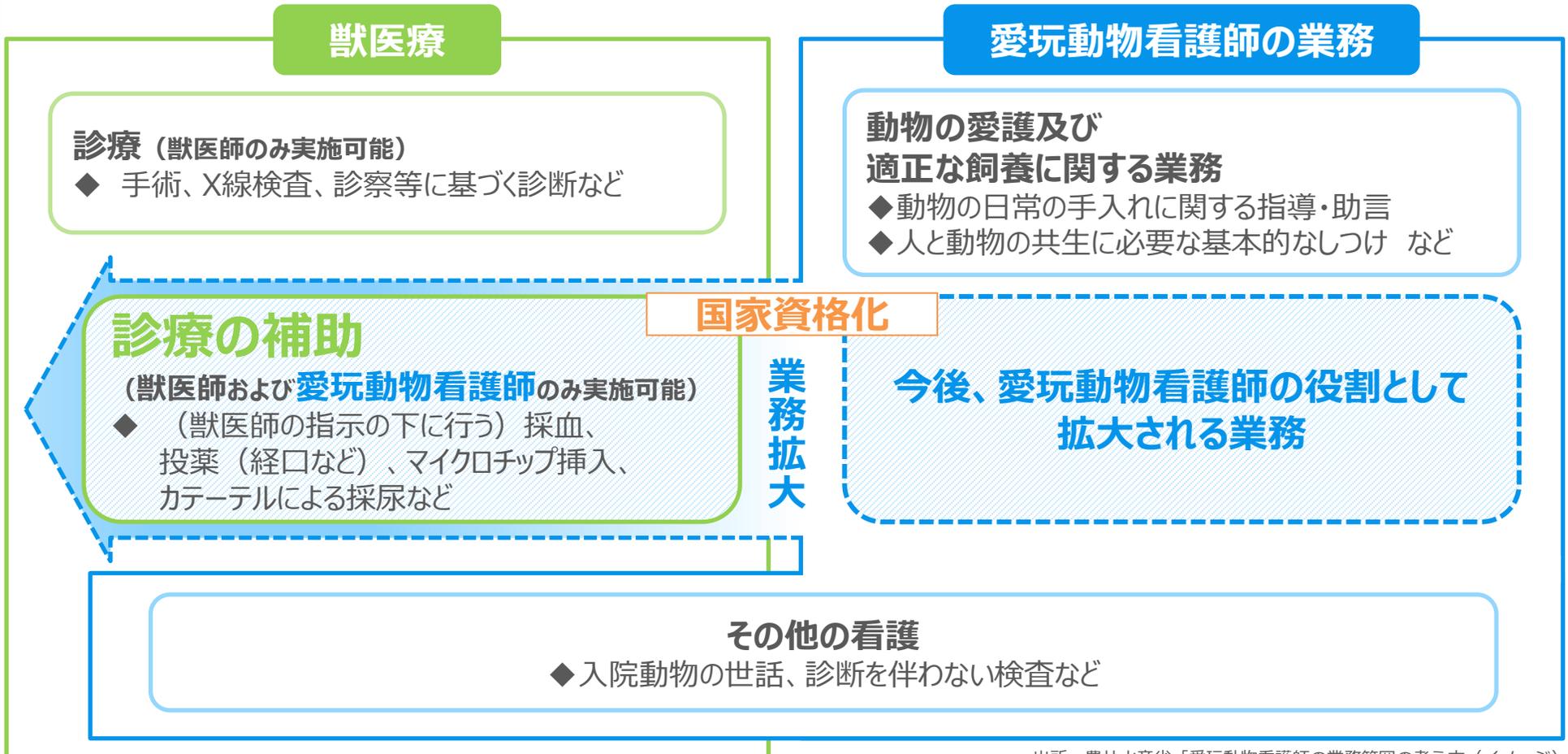
- ◆ ペットの健康状態の管理
- ◆ 留守中のペットの様子を確認
- ◆ 投薬効果をデータで判断
- ◆ 術後の経過観察
- ◆ 活動量を獣医と飼主で共有
- ◆ 写真・動画・活動データを組合わせて表示
- ◆ ペットカメラと組み合わせることで、より正確な様子を把握

ペットの異常の**早期発見・予防動物医療**の実現を目指す

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される。

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他法令で定める動物



出所：農林水産省「愛玩動物看護師の業務範囲の考え方 (イメージ)」

※第1回 愛玩動物看護師国家試験の実施時期は未定だが、遅くとも2023年12月末までには実施の見込み (農林水産省)

appendix



会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-604 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2021年秋頃に竣工予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	218名（非常勤18名を含む）※グループ全体（2020年9月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック（高度医療機器を用いた動物の画像診断センター）

2005年9月



株式会社日本動物高度医療センターを設立

2007年6月



川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業

2009年3月



「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける

2011年12月



名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業

2014年1月



株式会社キャミックを子会社化

2015年3月



東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）

2017年6月



キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業

2018年1月



東京病院を東京都足立区に開業



＜見通しに関する注意事項＞

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター

石川 隆行

044-850-1320

e-mail : takayuki.ishikawa@jarmec.jp